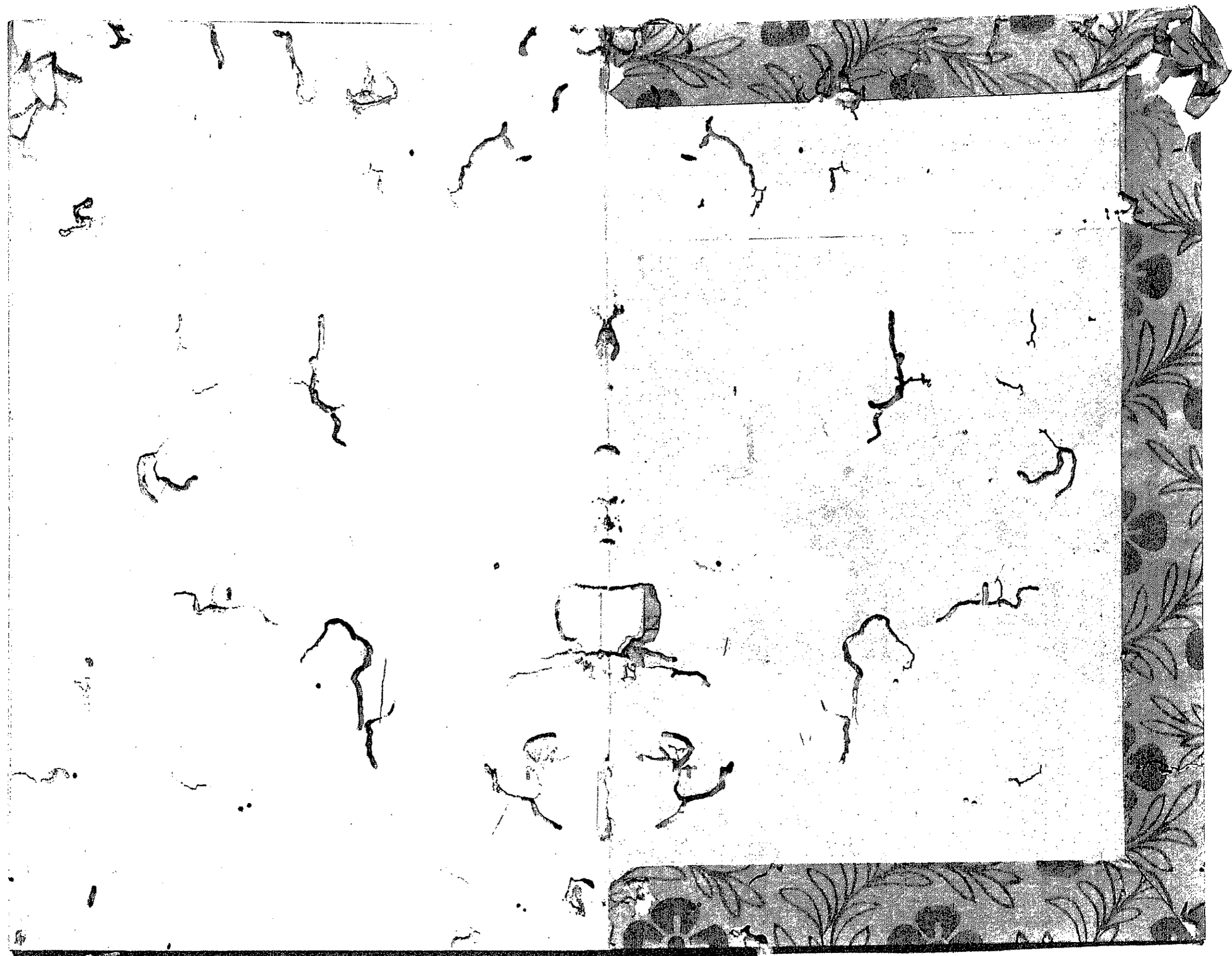




和蘭花甲書全圖

伊藤文庫
181

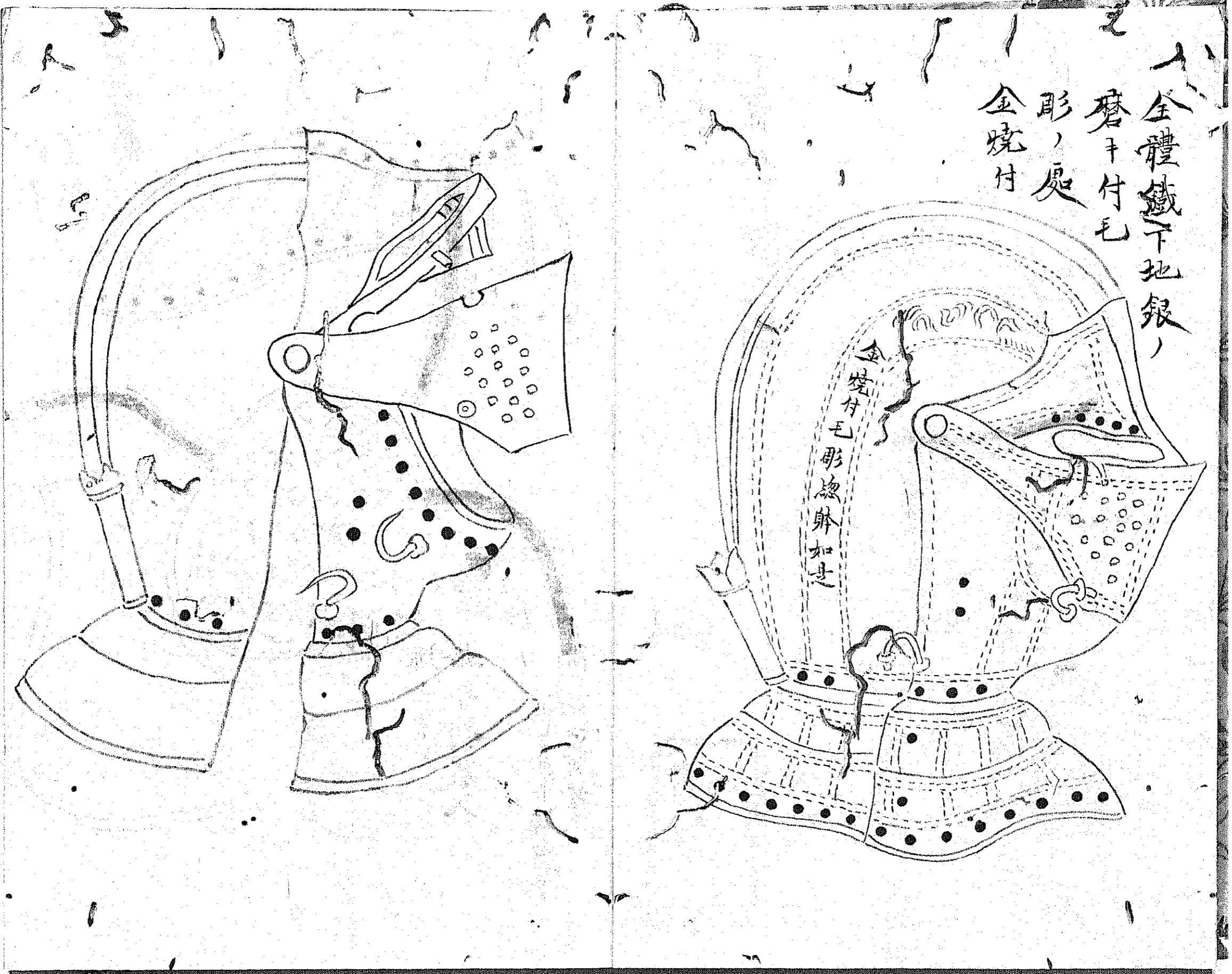




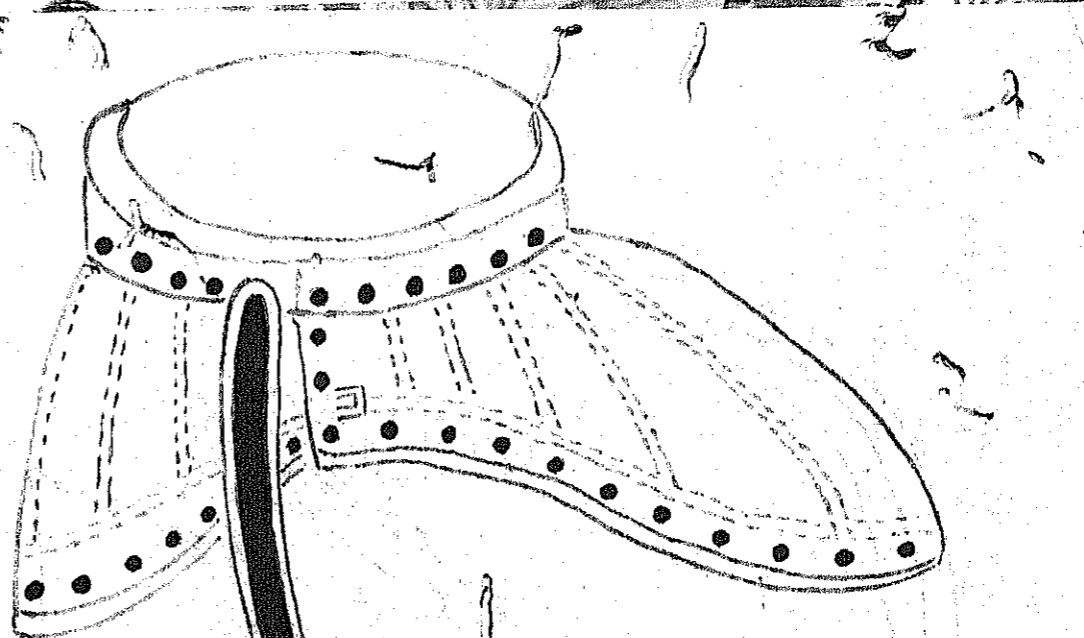
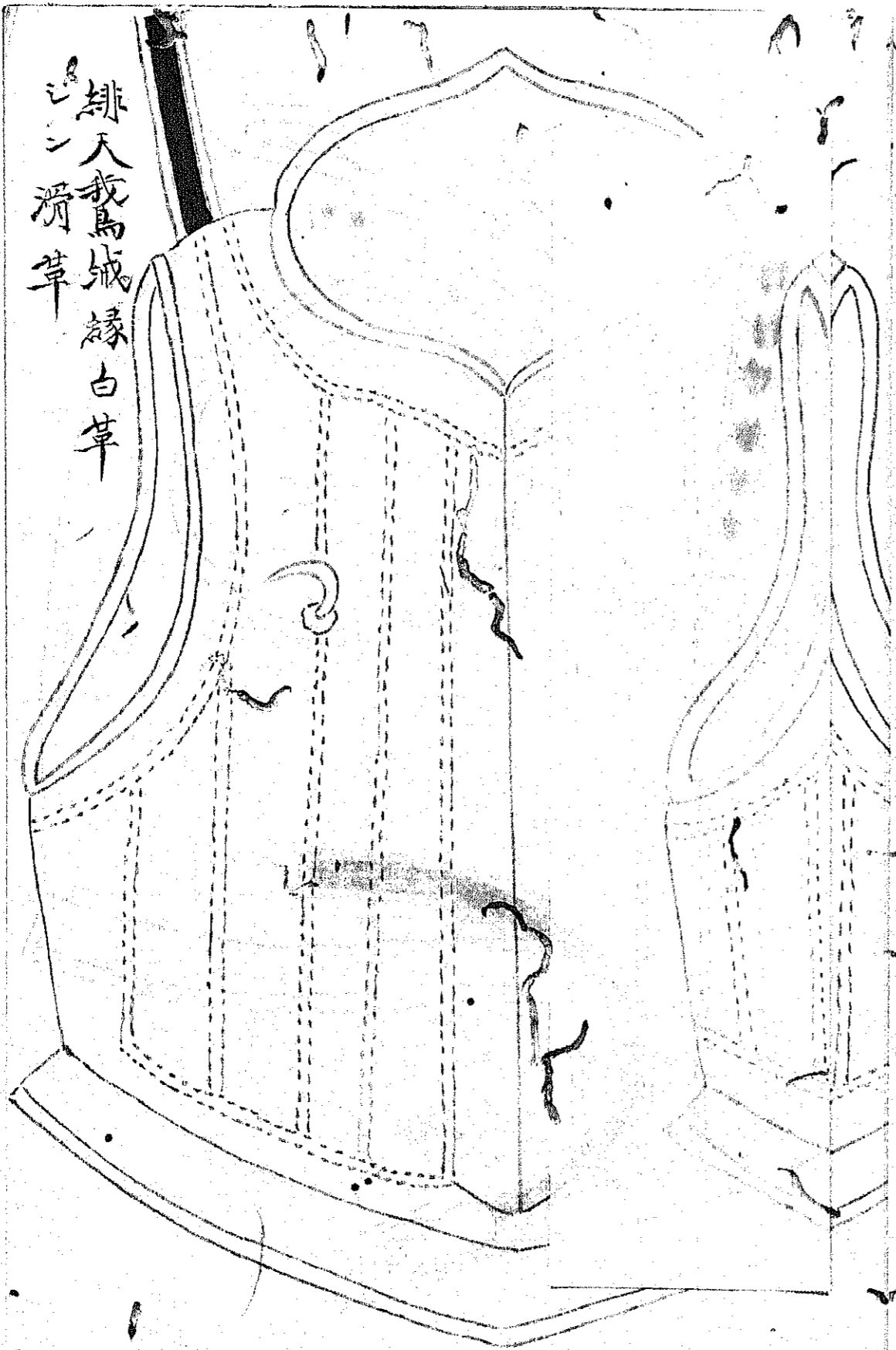
甲冑全具之圖

錄

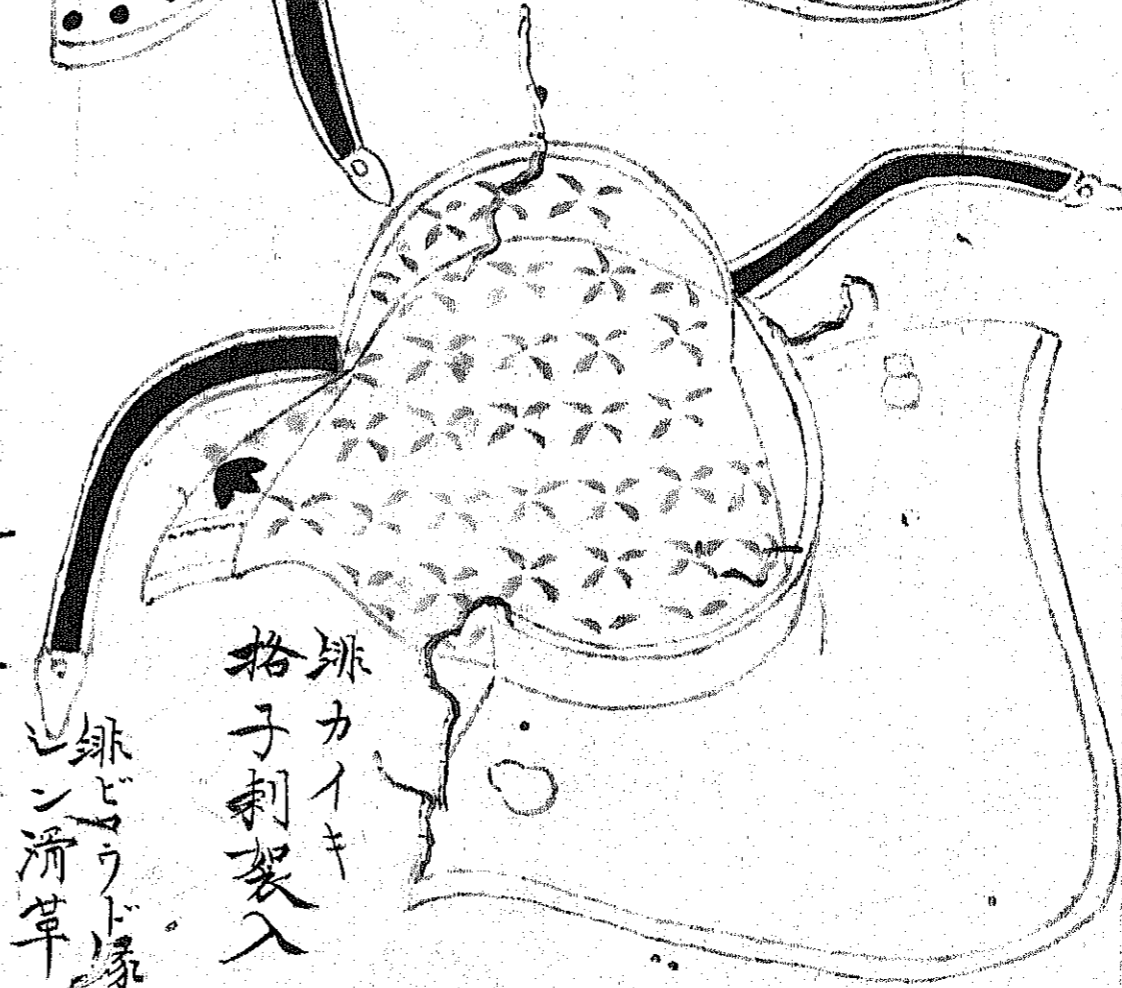
全體鐵下地銀
磨子付毛
彫、處
金燒付



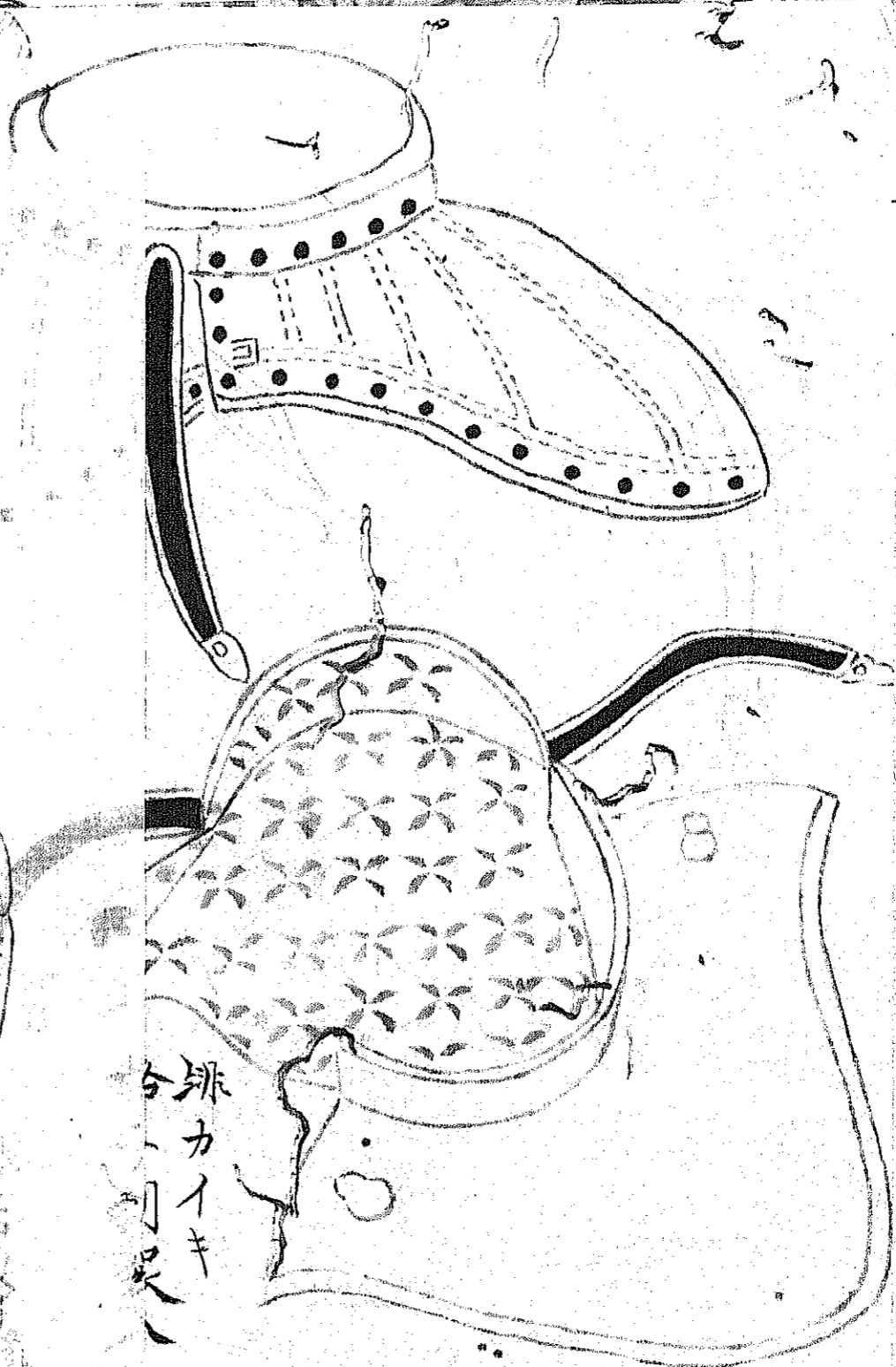
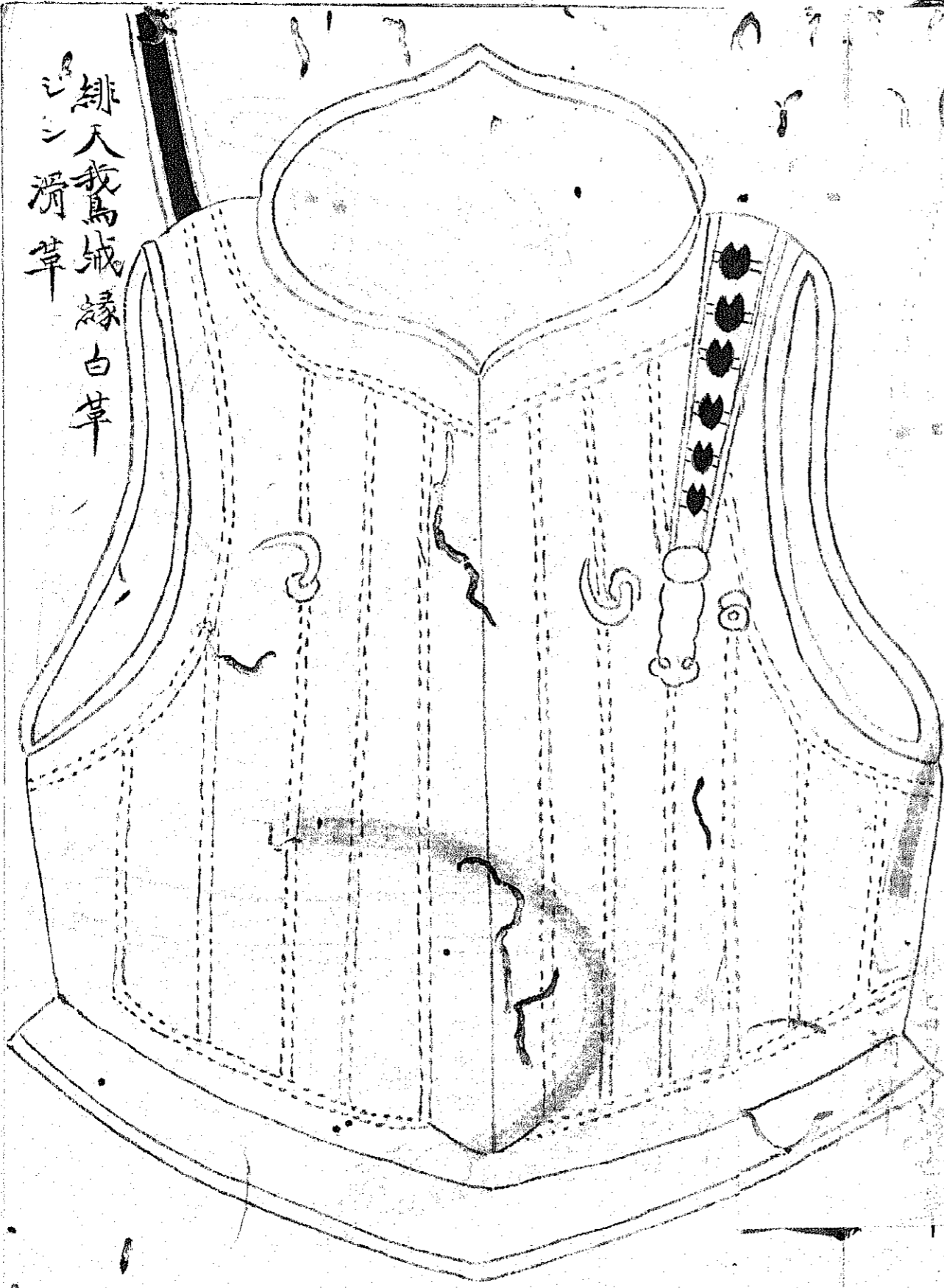
緋天我鳥城縁白草
シニ滑草



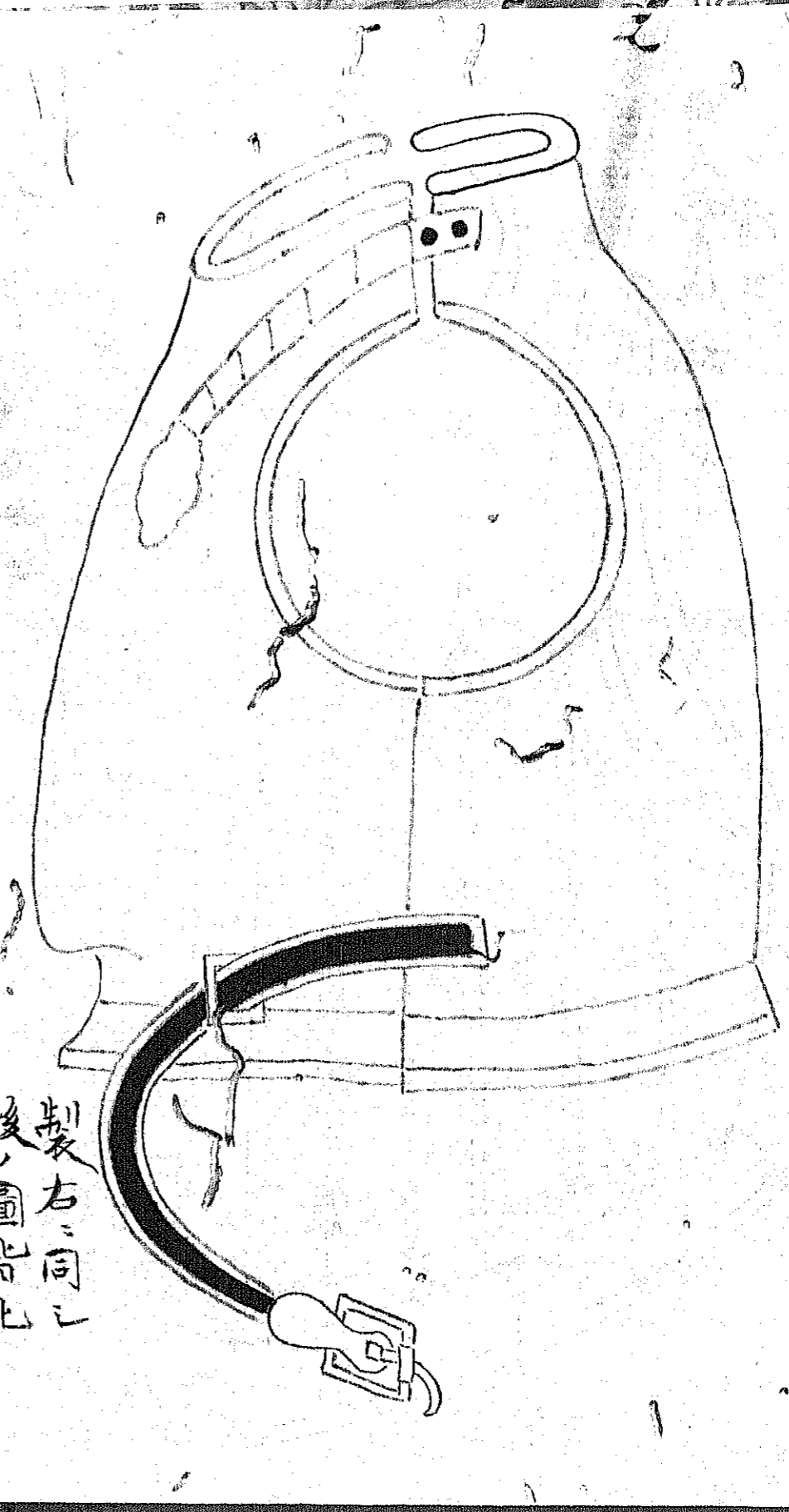
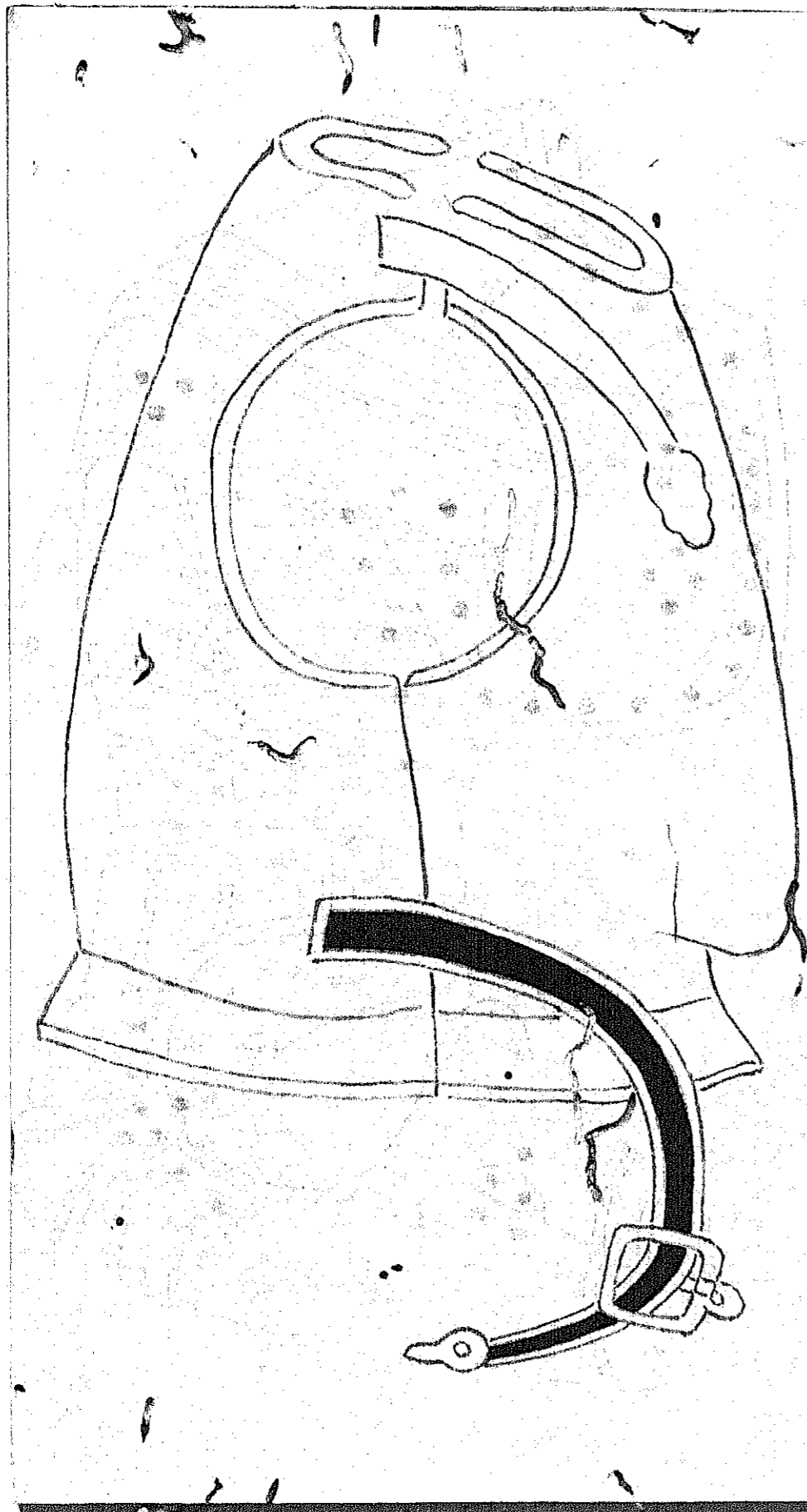
緋カイキ
格子刺裂入
シニ滑草
シニ滑草



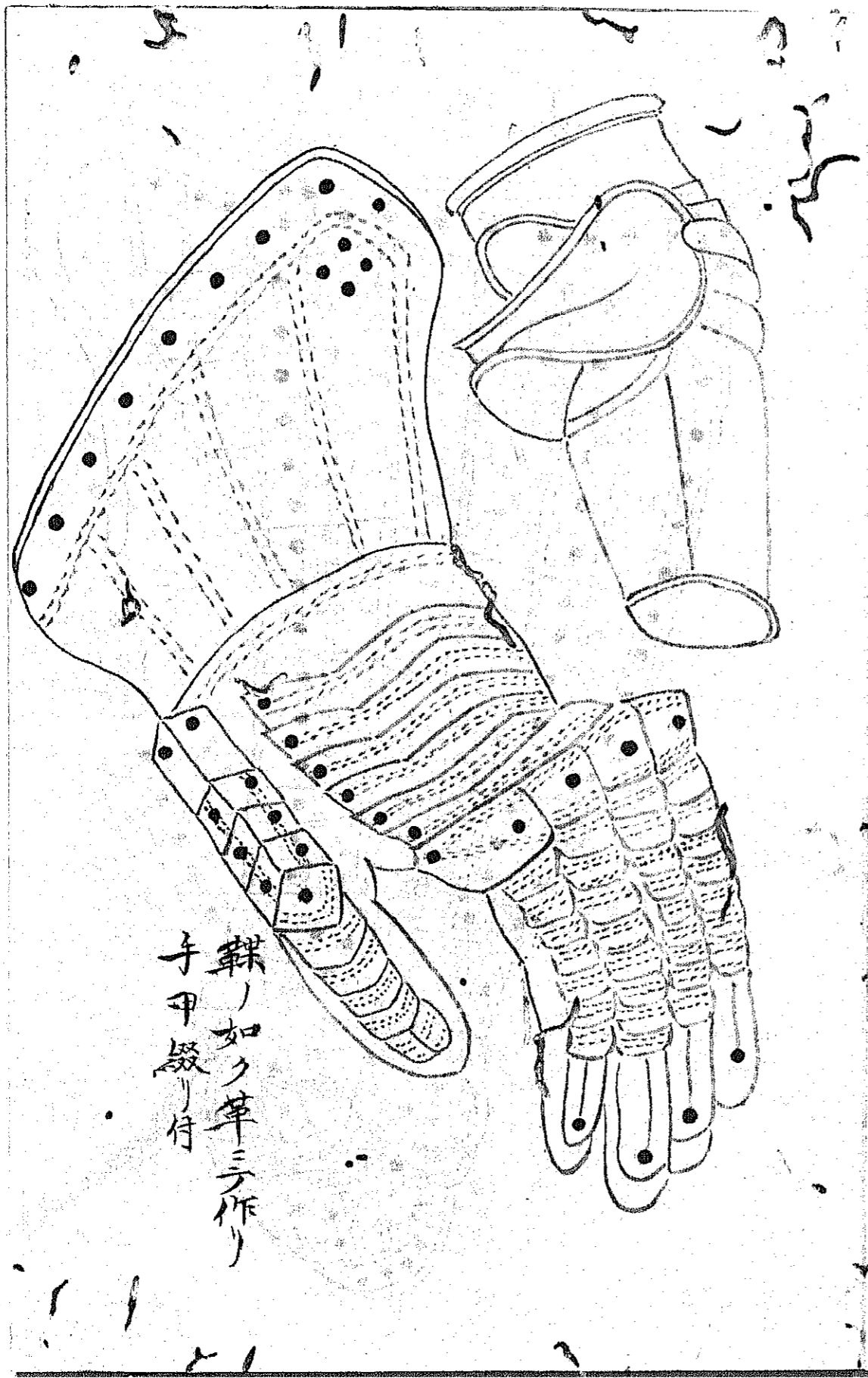
緋人我鳥絨縁白草
滑草



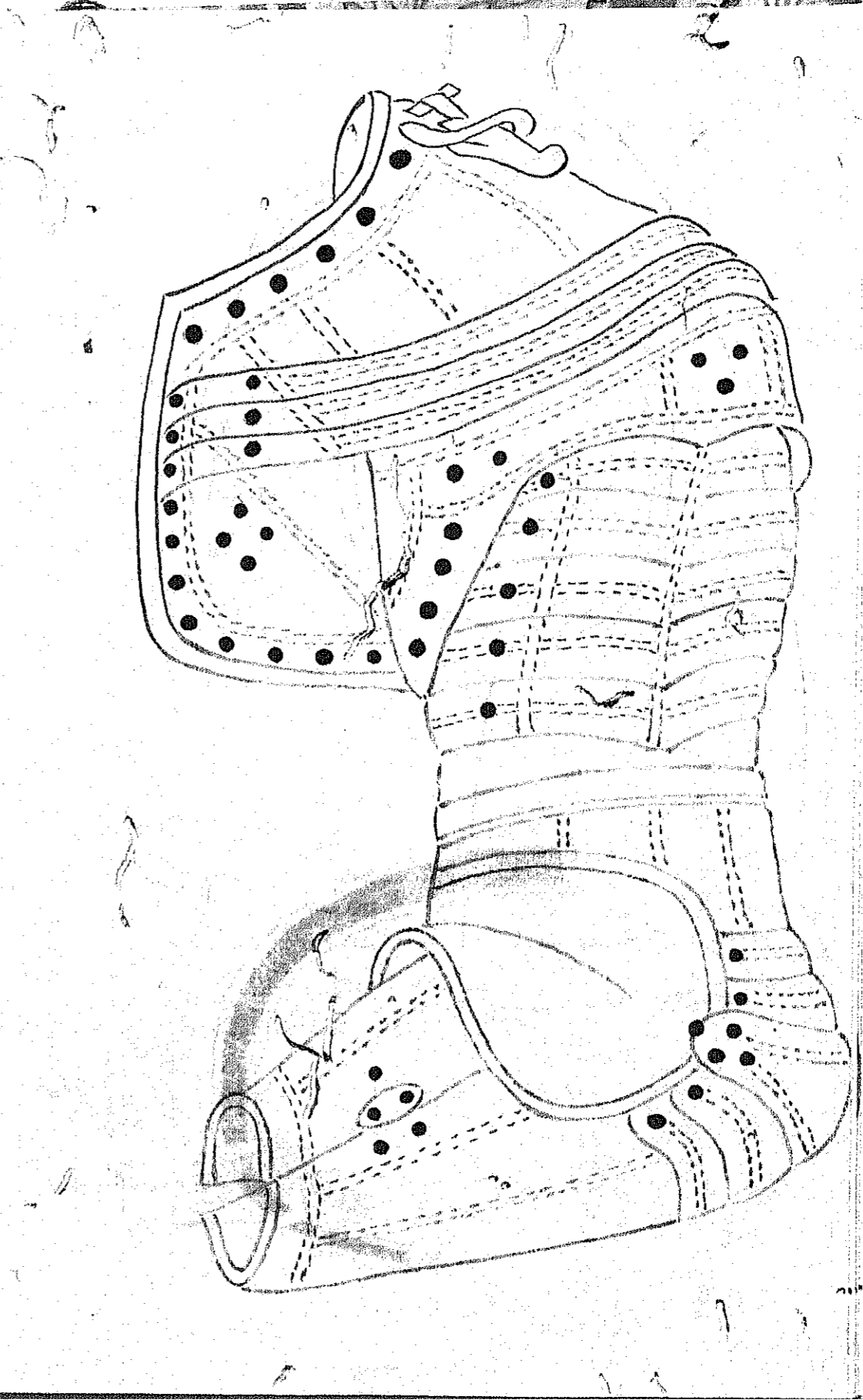
緋カイヤ
滑草

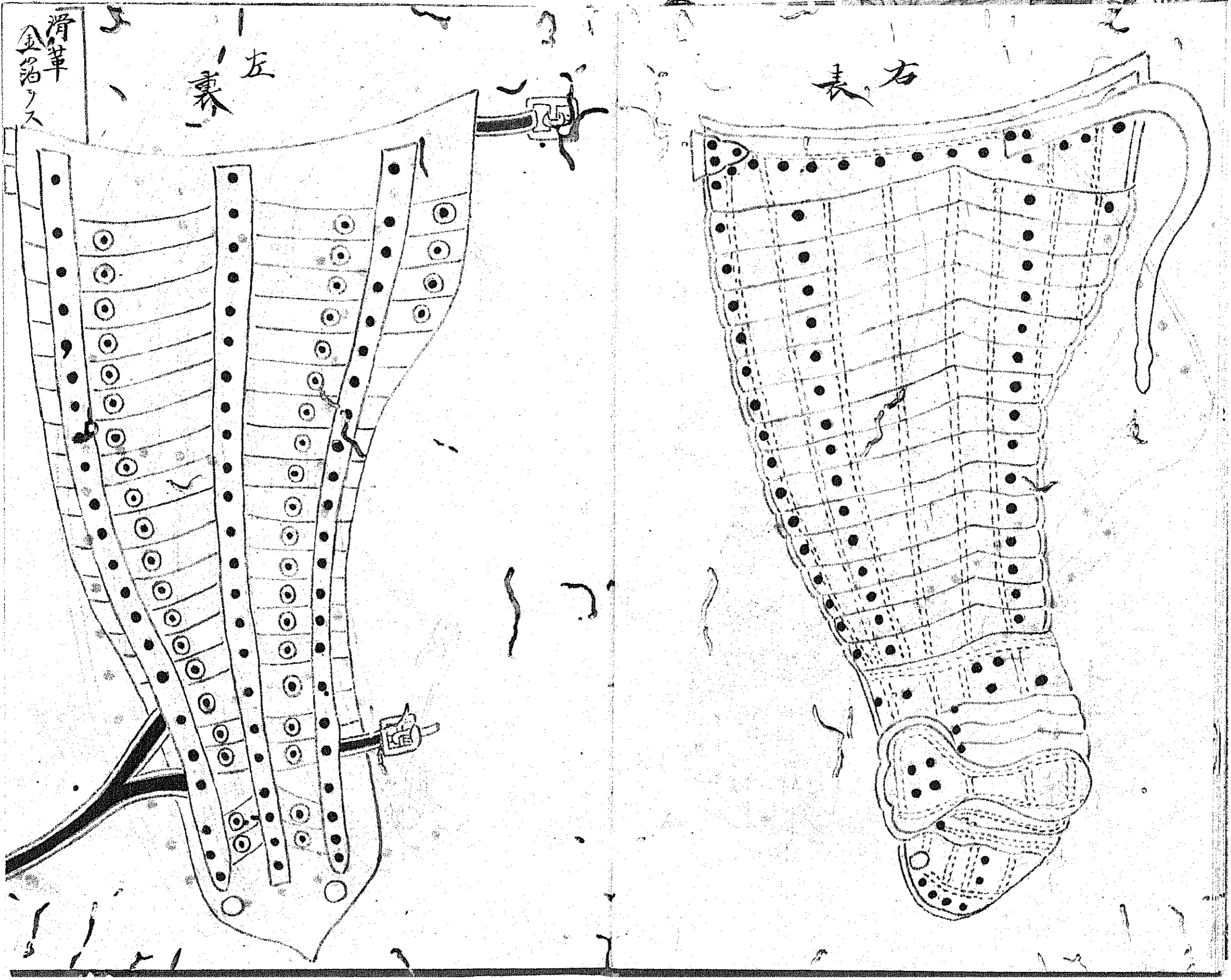


製右圖
後圖皆此
如之



鞆ノ如ク革ニ作リ
手甲綴リ付

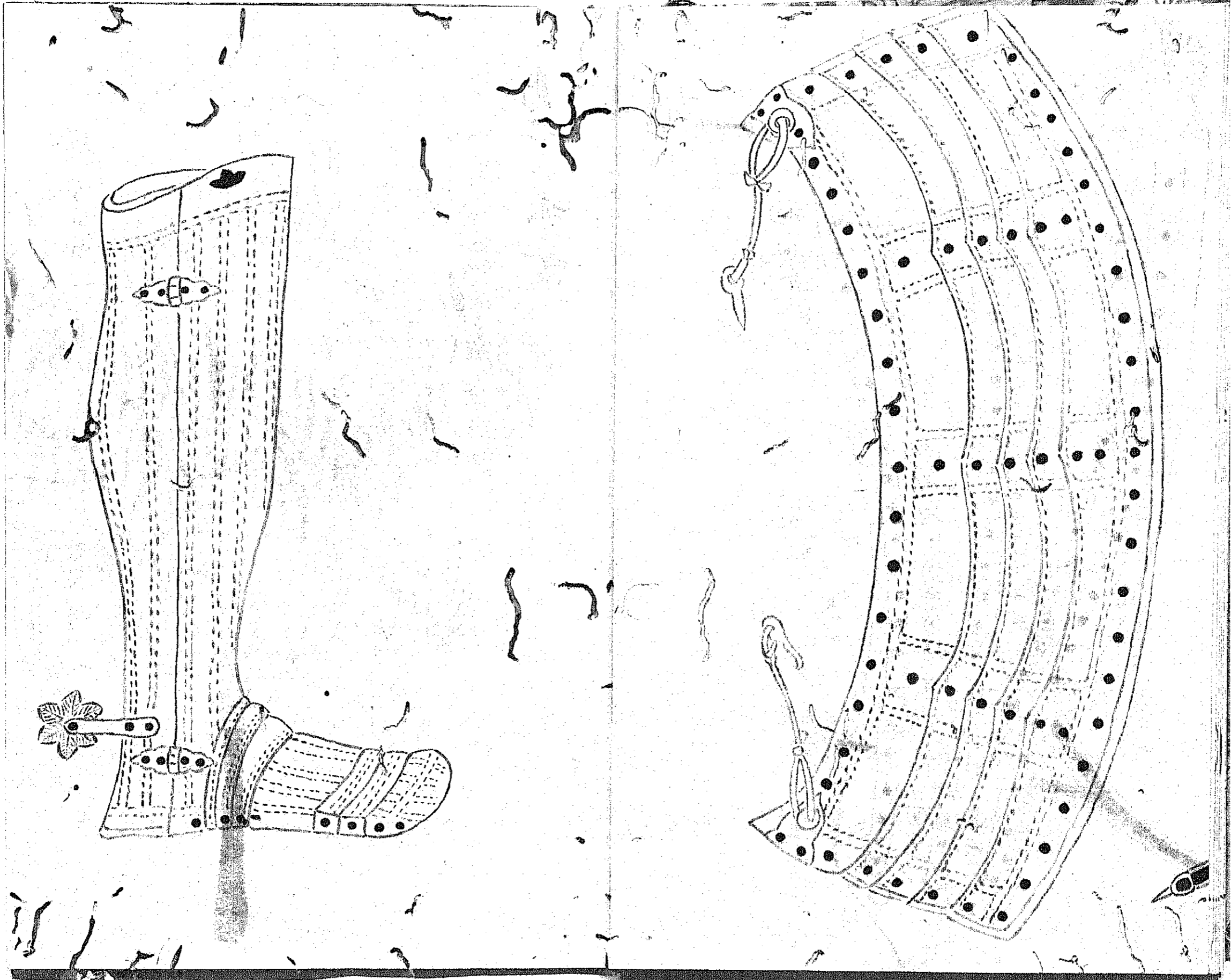


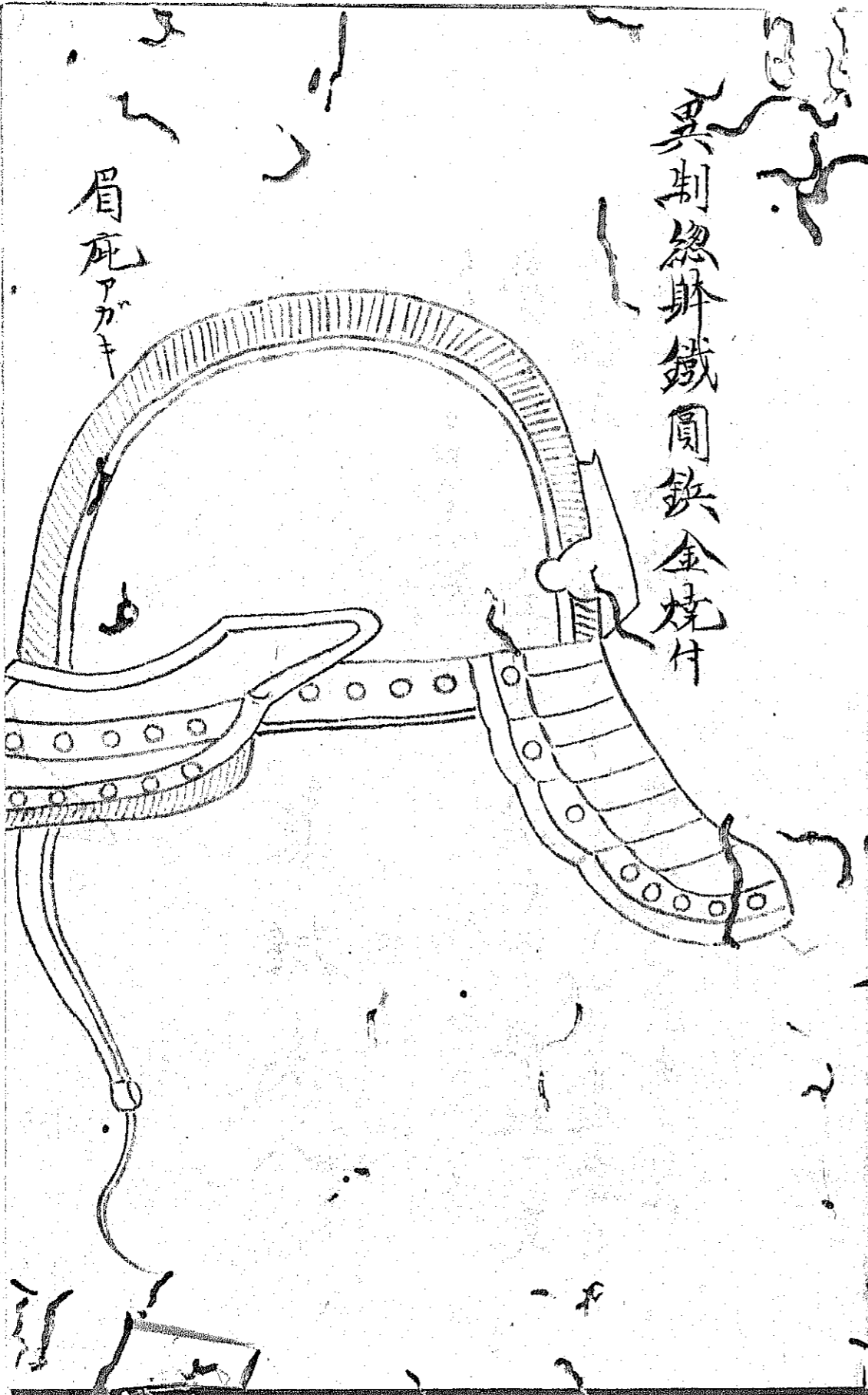


滑革
金箔

裏
左

表
右

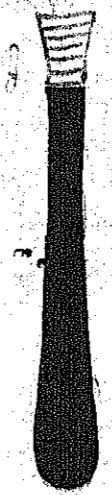




眉瓦
アガキ

異制総躰鐵圓鉄金燒付

鳥毛白赤紫



此圖也 和蘭甲比丹へニテルキナウフ
カ将来スル所ノ甲由ヲ以テ畫之ト
實ニ然リヤ否ナラズト雖此ニ其
聞トコロヲ識ス

葛坡老人



甲冑

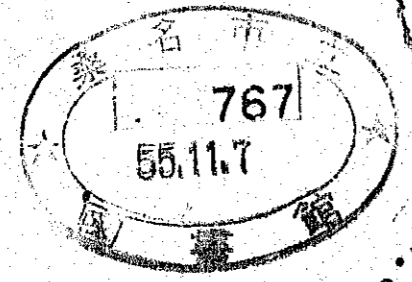
西洋諸州の戦闘に甲冑をきりて大楯教門長短
銃をりてその敵の射の堅甲を看とるもい
れも銃丸にこそ射るべきなり阿しは家馳驅進退
自在なるありしきりあるもあらず一皮國製銅版
鏤刻戦争の細畫を圍りしに甲冑ハまると常
服に如く是をきりてその敵の射の堅甲を
得しかりて一皮國の住禁くる甲冑ハ
やまらずはあらず大銃大楯に
川流の舟をきりてその敵の射の堅甲を
國にても戦國にてもあらずしかりて元龜天下
の舟をきりてその敵の射の堅甲を

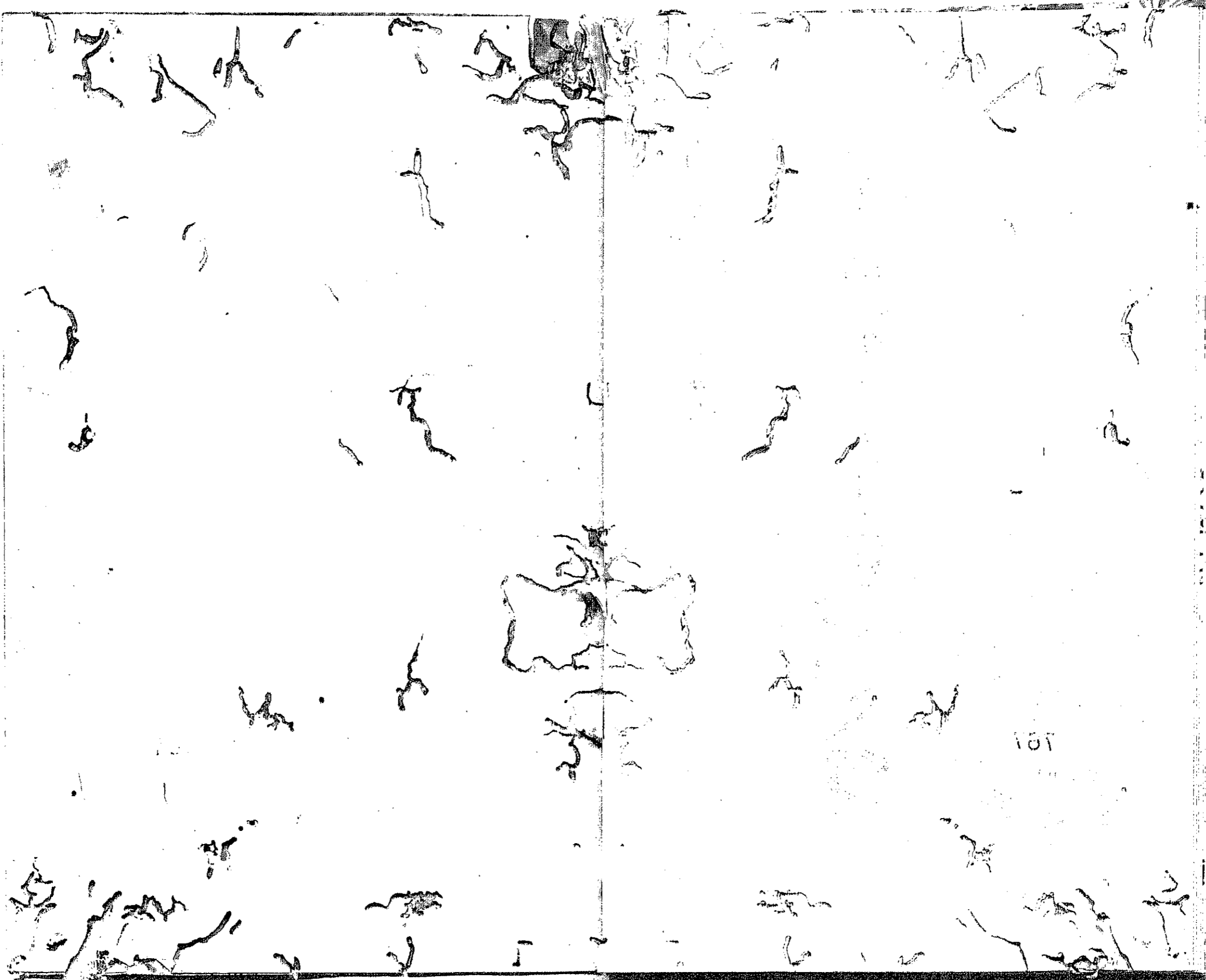
自其始甲冑之製作一變一難波の戦闘
ハ其の初より終りまで今も亦りては大小の銃
火術のしるきを完りて人ハ名工匠人作りの甲冑
は其の間に法蓮の奥國へ戦闘もは人の甲冑
をいふものもあつては進退の自在なる
も希筆綴りの甲冑をいふものもあつて我
國の製法をいふものもあつては密國の銃炮を
用ひて其術の工を造りては甲冑の用も亦
時によつてあつては其の間に
及ぶものもあつては大嶺火術の
百十歳の後甲冑の用も亦りては謀の用也

嘉永三庚戌

嘉永三庚戌 葉月書寫

六六新





107

